

和地ひとみレポート No.306

日経DUAL共働き子育てしやすい街ランキング2018 残念ながら順位を下げ…次の課題も浮き彫りに



■東大和市の結果は

…東大和市は平成27年から「日本一子育てしやすいまちづくり」を目指して、子どもたちや子育て世代を応援する施策を重点施策として様々な取り組みを行ってきました。その結果、日経新聞社と日経BP社の共働き子育て家庭向け情報サイト「日経DUAL」が2015年から毎年、人口の多い主要自治体を調査して行う“共働き子育てしやすい街”の総合ランキングで東大和市は平成28年(2016年)第4位、平成29年(2017年)第3位と上位にランキングされました。この結果は、実際に施策を進めている市の自信ならびにモチベーションアップにもなったとともに、市民の東大和市への誇りと愛着心を押し上げたと思います。…そして平成30年(2018年)のこの調査の総合ランキングの東大和市の結果は、残念ながら順位を下げ、総合21位というものでした。

■2018年のランキング結果は

…昨年12月に発表された2018年の調査対象は首都圏(東京・神奈川・埼玉・千葉)、中京圏(愛知・岐阜・三重)、関西圏(大阪・兵庫・京都)の主要市区と全国の政令指定都市、道府県庁所在地の162自治体。そのうち、回答のあった自治体は143でその結果は以下の通りです。

【総合ランキング】 ※太字は東京都

1位	68点	宇都宮市(栃木県) 新宿区(東京都)
3位	66点	厚木市(神奈川県) 千代田区(東京都)
5位	65点	松戸市(千葉県)
6位	64点	板橋区(東京都) 福生市(東京都)
8位	63点	荒川区(東京都) 葛飾区(東京都)
10位	61点	柏市(千葉県) 杉並区(東京都) 豊島区(東京都)
13位	59点	浦安市(千葉県) 渋谷区(東京都) 船橋市(千葉県)
16位	58点	武蔵野市(東京都)
17位	57点	堺市(大阪府) 品川区(東京都) 羽村市(東京都) 大和市(神奈川県)
21位	56点	東大和市(東京都) 福岡市(福岡県)
23位	55点	大分市(大分県) 国立市(東京都) 静岡市(静岡県) 文京区(東京都)

…また、上記の通り、東京都の自治体が多くランキングされている中で、東大和市の都内順位は13位という結果となっています。

■評価ポイントの変化

…日経DUALの記事を見ると「この調査で最重要視しているのは、今年も例年通り『保育園入園を希望する人がどれくらい入るか(入りやすさ)』といった保育園に関する整備状況」とのこと。次いで『子育て世帯に向けた補助・サービス』、『学童保育の整備状況』などをそれぞれ評価しているとのこと。

また、記事には「共働きをしながら子どもを育てやすい自治体とはどんな街なのか、そこには様々な視点が存在することでしょう。しかし日経DUALでは特に「共働きをする際に必須になる施設(インフラ)と補助(お金・サービス)」の2点に注目し、ランキングしました。」とのことでした。

…そこで、東大和市が一桁台の上位にランキングされた年の評価ポイントと今回の(2018年)の評価ポイントを改めて確認したところ、以下の通りでした。太字は、前年と変化のない評価ポイントです。

【2016年の評価ポイント:12点】

- ①認可園に入りたい人が入れているか
- ②認可園の定員増に力を入れているか
- ③認可外保育園などの受け皿がどのくらい用意されているか
- ④ファミリーサポートセンターの充実度
- ⑤病児保育に預けやすいか
- ⑥認可園の保育料が高いか安いか
- ⑦都認証保育所など認可外園に通う家庭への助成があるか
- ⑧未就学児がいる世帯へのサービス・現物支給があるか
- ⑨学童保育が充実しているか
- ⑩保育士確保へ自治体独自の取り組みがあるか
- ⑪母親の再就職を後押しする制度があるか
- ⑫未就学児の人数・ファミリーサポートセンターの運営補助に係る経費

【2017年の評価ポイント:12点】

- ①認可保育園に入りたい人が入れているか
- ②認可保育園、今後の新設計画
- ③認可外保育園などの受け皿がどのくらい用意されているか、利用者への助成はあるか
- ④ファミリーサポートセンターの充実度
- ⑤病児保育に預けやすいか
- ⑥認可園の保育料が高いか安いか
- ⑦未就学児がいる世帯へのサービス・現物支給があるか
- ⑧学童保育が充実しているか
- ⑨保育士確保へ自治体独自の取り組みがあるか
- ⑩保育の質担保への取り組み
- ⑪幼稚園の活用
- ⑫未就学児の人数助に係る経費

【2018年の評価ポイント:13点】

- ①認可保育園に入りたい人が入れているか
- ②認可保育園の保育利用枠の今後の増設状況
- ③認可外保育園などの受け皿がどのくらい用意されているか、利用者への助成はあるか
- ④病児保育施設の充実度
- ⑤幼児教育・保育無償化以上に保育料値下げなどしているか
- ⑥未就学児がいる世帯へのサービス・現物支給があるか
- ⑦学童保育が充実しているか
- ⑧保育士確保へ自治体独自の取り組みがあるか
- ⑨保育の質担保への取り組み
- ⑩産後ケアへの取り組み
- ⑪不妊治療助成を実施しているか
- ⑫児童虐待に対応する支援拠点の整備
- ⑬未就学児の人数

…このように、評価ポイントの変化を見ると普遍的に“子育て”支援に必要とされていることがある一方で、新たな問題、制度の変化などによりニーズが変化しているように感じます。

…2018年の評価ポイントを見ると「児童虐待に対応する支援の拠点の整備」や「不妊治療助成を実施しているか」といった、新たな視点が追加されたとともに、少子化という問題のそもそも論の「未就学児の人数」という点も追加されています。

■東大和市の取組みと課題

…“子育てしやすい街”という点はこのランキングが全てではありませんが、やはり順位を下げてしまったということは気になる。言い換えれば、利用者である子育て世代のニーズに対して、自治体がどのようなことに取り組んでいるのか、他の自治体がどのようなサービスを実現し、ニーズに込んでいるのかということがわかるものなので、参考にはすべきです。

…ランキングを下げてしまった東大和市ですが、このランキングに関係のある新たな取組みも来年度予算には盛り込まれています。新規事業としては『ファミリーサポートセンターの運営補助に係る経費』、『医療的ケアを必要とする児童の支援に係る経費』、『小規模保育に係る経費』、『保育園の園舎増築＝定員拡大に係る補助』、『不妊検査及び一般不妊治療助成に係る経費』などが挙げられます。

…一方で今まで一桁台と順調に対応できていた待機児童については、保育の無償化を見据えてのニーズ増などにより、今年度からは深刻な状況となってきました。

…平成30年度は入園の申し込みも以前より多く、現状では待機児童数が3桁になっている状況。東大和市の人口の推計等を見ても、対象年齢の子どもの人数は若干減ってきていますが、市では今後もニーズが増加すると見込み、定員を増やしています。しかし、その取組みも、入園ニーズに追いついていないのが現状とのこと。

…市としては「国のこれからの幼児教育と保育の無償化への期待と、それに伴い前倒し的に早く申し込みをしたほうが有利ではないか」というような予測による申し込みの増など」が主な要因として考えられるとされています。また、女性の就業率80%を国が目指している中、東大和市の状況は目標よりかなり低い状況だったため、その結果を受けて市では今後の保育園入園に対するニーズの試算を行ったとのことですが、その試算が少し甘かったことも判明しているとのことでした。今後はさらなる予測の上方修正を行わないと対応できない状況となっているようです。

…また、平成30年4月に民設民営学童保育所が開所し、現在、公立11カ所、民間2カ所の計13カ所ある学童保育所ですが、学童保育でも待機児童の問題が深刻化しています。東大和市では学童保育所に入れなかった児童の対応のために児童館事業の中の一環として“ランドセル来館”を行っていますが、有料でおやつが付く学童保育と無料の（おやつはない）“ランドセル来館”に対するニーズが交錯し、複雑化しているように、本来的な学童保育のニーズが把握しづらい状況のように思います。しかし、現実的に、国等への報告の基準日である平成30年5月1日現在の学童保育所の待機児童数は104人となっているため、この問題解消のためにも、本当の意味でのニーズを把握し、それに対する対応を行う必要があるように感じます。

■保育無償化と子育てに対する認識の変化

…子育て、保育に関する大きな変化は今年の10月から実施される幼児教育・保育無償化。3～5歳児の認可保育所や幼稚園に預ける保育料は原則、全世帯が無償化。0～2歳児の保育料に関しては住民税非課税の低所得世帯については無償化になります。子育て世帯にとってはありがたい施策である一方、保育無償化によってこれまで子どもを保育所に預けていなかった世帯の潜在需要まで掘り起こされることで、待機児童が増えることが予想されます。実際、この無償化に対して多くの自治体で保育所利用申込者が増えることを予想しており、東大和市でも上記の通り、当初の予測の修正が必要となっています。

…児童虐待、子どもの貧困など、子ども達を取り巻く環境や問題も変化。社会で子ども達を育て、見守るといふことの必要性、そして幼児教育・保育無償化、さらに女性の就業率の向上の必要性という動きの中、様々なニーズへの対応だけでなく、真に住みやすい街、日本の将来といった大きな視点で見た際の課題は山積みのように感じます。

…女性の就業率が80%を超えるスウェーデンでは国全体で待機児童はほぼゼロ。このようなことを実現するには自治体の努力だけではなく、国としての大きな方向転換も必要です。そして、この時代の変化を日本人一人ひとりや企業が受け入れるという柔軟さも、様々な課題解決には不可欠だと思いました。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。学校外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在2期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員

和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102